

フィールドで学ぶ「斐伊川百科」自然科学系のフィールド実習報告.

6月2日

大橋川岸のオオクグの群生地の観察



最初の見学地は、大橋川の川岸に繁茂している絶滅危惧種オオクグの群生地です。國井先生によって群落の構成などの説明を受けました。

宍道湖の再生護岸の見学



国土交通省が行っている宍道湖の再生護岸を見学しました。ここでは、竹ポットを使ったヨシの育成や浅場造成等の説明を受けました。

その後、ゴビウスや水鳥公園を見学し、外江の海草の観察に行きました。

外江の海草の観察



外江で海草や海藻の観察を行いました。

護岸の手前側では、アオサやアオノリが岩にはりついており、その向こうにウミトラノオが繁茂していました。さらにその外側には、アマモが繁茂しています。アマモの群生範囲は狭く、すぐ外側に砂地が見えました。

今年はアマモ群生範囲が小さいらしく、ちょっと心配な状況のようです。

中海分室にて

夜は楽しくバーベキューです。

この授業は、多くの学部
の学生が受講していますので、学部間交流ができたと思います。

その後、中海分室で宿泊しました。受講された学生は、遅くまで、語りあっていたような、いなかったような。



6月3日

中海での船上調査実習

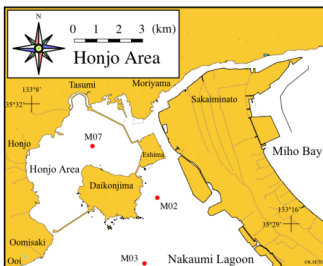


透明度の測定

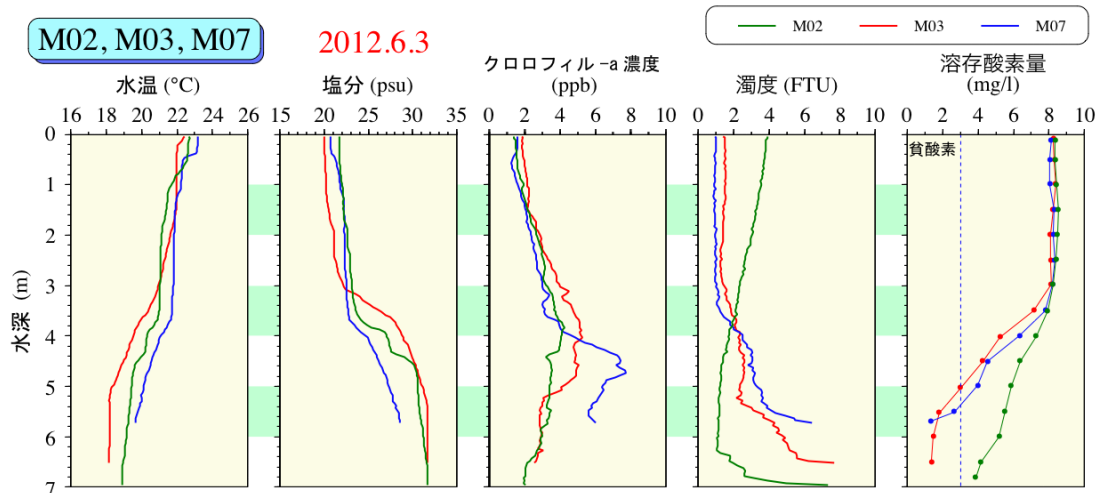
今年、小型調査船「ぼたん」に乗船して、船上実習を行いました。1班は、中海湖心 (M03 地点), 2班は本庄水域湖心 (M07 地点), 3班は大根島沖 (M02 地点) でそれぞれ水質測定, 採泥を行いました。



表層堆積物の観察



中海と本庄水域の湖心では、すでに貧酸素状態になっているようです。しかし、M03 地点では、チヨノハナガイが、M02 と M07 では、シズクガイの生きている個体を観察することができました。今後、貧酸素状態はさらに進み、それらの貝は死んでいくのでしょうか？



3 地点の水質測定結果

船上調査実習後、大学バスに乗り、無事解散しました。

(文責 瀬戸浩二)